

## 定例記者会見 市長コメント (概要)

### ① 「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す」ことについて(資料1)

近年、世界各国、日本全国各地で猛暑、大型台風、豪雨などの異常気象が発生している。当市でも、令和元年の台風19号による甚大な被害を受けたことは記憶に新しいところである。

このような異常気象発生の要因として、温室効果ガスの排出がもたらす地球温暖化が気候変動を引き起こすものと考えられている。

気候変動問題は、国際社会が一体となり取り組むべき重要な課題である。国連気候変動枠組条約締約国会議において、2015年「パリ協定」が採択され、各国が削減目標を提出することが義務付けられたが、地球温暖化には歯止めがかかっていない。

令和2年10月、国は「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを表明した。

当市は、海、山、川などの自然環境に恵まれている。この貴重な自然環境を未来の子供たちに引き継いでいく必要がある。

市民一人ひとりが、今置かれている現状を把握し、危機感を持って行動していく必要があるため、ここに「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す」ことを表明し、省エネルギーの推進や、再生可能エネルギーの導入を促進し、地域経済や市民の生活の向上に向け、市民、事業者、行政が一丸となり脱炭素社会を目指して参る。

### ② 東日本大震災復興支援感謝のつどいの開催について(資料2・3)

11月7日、午前9時30分から陸中海岸グランドホテルで、当市を会場に開催される国主催の「ぼうさいこくたい」の期日と併せて、「東日本大震災復興支援感謝のつどい」を開催する。

本つどいは、東日本大震災の復興にご尽力をいただいた皆様に改めて感謝の意を表するとともに、復興10年の歩みを振り返り、災害に強い今後のまちづくりを考える場として開催するものであり、釜石の復興に携わったアドバイザーや非営利団体の代表の方々などをお迎えして感謝状をお渡しするほか、当市の復興した姿を広く発信するトークセッション行う予定である。

開催当日の様子は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ご支援いただいた皆様全員にお集まりいただくことは難しい状況であることから、You Tubeチャンネル「ラグビーのまち釜石」においてライブ配信する。復興支援団体の皆様をはじめ多くの方々にご視聴いただきたい。

またこれまで、当市の復旧・復興にご支援いただいた自治体、教育機関、企業などに感謝状を贈呈してきたが、今年度内に850団体あまりの非営利団体の皆様についても、感謝状をお贈りする予定としている。

併せて、情報提供項目にある、「第6回防災推進国民大会」について周知させていただく。

11月6日と7日に当市で開催されるこの大会は、内閣府などが主催する国内最大級の防災イベントである。

今年の大会は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、入場制限を行った事前申込による現地参加とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催されることとなった。

会場は、市民ホール TETTO やチームスマイル釜石 PIT の他、ホテルサンルート釜石、イオンタウン釜石などとなっており、当市からも関係者の皆さんがセッションなどに登壇予定となっているので、多くの方々に参加いただきたい。

### ③ 新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナワクチンを接種された方が増加するにつれて、全国的に新規感染者数は大幅に減少している。県内においても 10 月以降の新規感染者数は僅か 7 人であり、また、10 月 11 日以降は、一人も確認されていない。

釜石保健所管内でも、前回の報告以降感染者は確認されておらず収束した状況となっている。

これもひとえに、日頃から市民の皆様一人ひとりが感染防止対策を強く意識され、実践していることの成果と、新型コロナワクチンの接種が進んだことによる効果と考えている。

この後、寒い季節を迎え、換気の徹底が難しくなるほか、新たな変異株の出現などにより再び感染が拡大することも想定されることから、引き続き十分な警戒と基本的な感染防止対策を実践していただくようお願いする。

また、現在のところ、国内において感染が拡大している地域はないが、移動先の感染状況に注視するなど、引き続き慎重に判断していただくようお願いする。

次に、新型コロナワクチンの接種状況についてである。

12 歳以上の接種対象者への接種状況は、10 月 25 日現在、対象者 29,385 人に対し、1 回目の接種を終えた方は、26,474 人で接種率は 90.1%、2 回目の接種を終えた方は、23,458 人で接種率は 79.8%となっている。

現在は、最後の年齢区分となる 29 歳以下の方の接種を行っているが、きたる 10 月 31 日の集団接種をもって、予約をいただいている方の 1 回目の接種を全て終え、11 月 21 日の集団接種を最後に、接種を希望された方全ての 2 回目の接種が完了する見込みである。

なお、体調不良等のため、予定していた集団接種で接種できなかった方や、今後、改めて接種を希望される方については、接種可能な医療機関を確保し、市が調整し個別に対応する。

また、3 回目の追加接種について、国からは 2 回目の接種から概ね 8 ヶ月経過後に行うことが示されているので、釜石医師会をはじめ各医療機関などと調整を図り、準備が整い次第お知らせする。

次に、釜石市社会福祉協議会が窓口となり、新型コロナウイルス感染症の影響で生活費に困窮する世帯に緊急的な貸付をする「生活福祉資金貸付制度」については、申請期限が 11 月 30 日までとなっており、新規相談件数は減少傾向であるが、緊急小口資金貸付後に引き続き生活資金の貸付けを行う総合支援資金については、10 月において 4 件の申請があり、岩手県社会福祉協議会が貸付を決定している。

なお、貸付期間が終了した後も、引き続き生活に困窮する世帯を支援する「新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金」については、地域福祉課にこれまで 5 件の相談が寄せられ、そのうち 1 件について支給を決定している。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている低所得世帯の家計への負担を軽減す

るため、市内事業者及び障がい者就労支援事業所で生産又は取り扱う商品を発送する「福祉エール便事業」については、9月30日で申請を締め切りしたが、最終的に1,187件の申請があった。福祉エール便の発送を希望された世帯には、今月中に商品発送が完了する見込みである。

引き続き、関係機関と連携し、コロナ禍における生活状況の把握に努めるとともに、生活に困窮する方に必要な支援が届くよう努めてまいる。

次に事業者支援についてである。

長期化する感染症の影響下にあっても事業が継続できるよう、売上げが減少している事業者に対し給付金を交付する「釜石市経営支援給付金」については、10月1日から申請受付を開始しているが10月21日現在、52事業者から申請があり、本日までに全事業者に総額550万円を交付している。

感染防止対策に経費を要す一方で、人流抑制の影響により利用者の減少が深刻な飲食店等に対し支援金を交付する「かまいし飲食店安心認証支援金」については、同じく10月1日から申請受付を開始し10月21日現在、50事業者から申請があり、本日までに全事業者に総額510万円を交付している。

宿泊料金の割引を行った宿泊業者に対し補助金を交付する「かまいし宿泊エール割事業」については、7月1日から第3弾を実施し、「岩手緊急事態宣言」の発出により8月19日から事業を一時停止していたが、宣言の解除を受け10月1日から再開し、10月15日現在で、11,423人泊分の利用があった。

プレミアム付商品券・食事券を発行する「かまいしエール券事業」については、10月25日をもって24,000冊が完売となった。エール券の利用期間は12月31日までであるので、早めにご利用いただきたい。

市としてはこれらの事業により、引き続き市内事業者を支援し、地域経済の活性化を図ってまいりたい。